

めざせ『ゆめみづほ』収量アップ！

～10aあたり収量 コシ+1 俵（60kg）を目指し、コシ以上の収益確保を!!～

なぜ今、収量向上が求められているの・・・？

- 『ゆめみづほ』は、多様なニーズに対応可能な良食味米として作付が拡大され、現在、JA 能美・根上地区の稲作付面積の約2割を占めています。近年は、需要がさらに高まり、生産拡大が求められています。
- 収量が向上すれば、コシヒカリ以上の利益確保も期待できます！！

10a 当たりの収支試算

	コシヒカリ(単収9俵)	ゆめみづほ(単収10俵)
収支(収益-費用)	41,165 円	41,652 円
コシヒカリとの差	—	487 円

仮渡金をコシヒカリ13,000円、ゆめみづほ12,000円（H30産並）と仮定した場合
コシ+1俵で仮渡金や肥料費の差額をカバーでき、コシ並の利益を確保できます♪

★食味や品質を維持しながら、ゆめみづほの収量向上に取り組みましょう★

★めざせ！コシ+1俵以上！！★

見直そう！収量構成要素！！

○ゆめみづほ目標収量構成要素



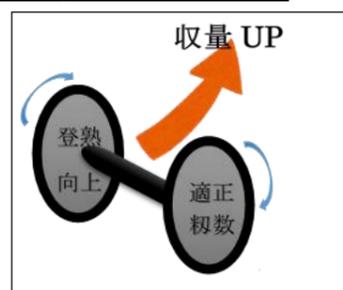
収量が少ない原因は
なんだろう？

	収量 (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒/穂)	m ² あたり粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
目標	600	455	67	30,500	85	23.0

ゆめみづほ減収の3パターン

- ① 生育過剰、穂数増で m² 粒数が過剰となり、登熟歩合が低下し、減収
- ② 一穂粒数過剰により m² 粒数が過剰となり、登熟歩合が低下し、減収
- ③ 穂数不足により m² 粒数が減少し、減収

重要



『適正粒数』と『登熟向上』を意識した栽培管理で収量向上をめざしましょう！！

【収量向上3大ポイント】



水管理 (バランスの良い穂相への誘導・稲体の活力維持)

- ◎健苗の育成・早期有効茎確保：細植え、浅植え・浅水管理
- ◎適正な中干しの実施：中干しは田植1ヶ月後までに開始
- ◎幼穂形成期以降の適正な水管理：飽水管理・収穫直前までの通水



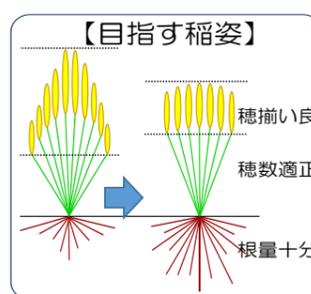
施肥 (後期栄養凋落の防止と品質及び食味維持)

- ◎上乗せ追肥実施
高温登熟が予想される場合に実施し、後期栄養凋落の防止、品質・食味を維持！



土づくり (品質・食味の向上・稲体の健全化)

- 「土壌診断結果に基づく不足資材の施用」
- ◎燐酸・加里の補給：初期生育確保・登熟向上
- ◎ケイ酸の施用：病害抵抗性・高温回避・登熟向上・倒伏軽減
- ◎作土深15cmを確保し、根量増加を図る
- ◎一発肥料では燐酸・加里の補給を意識した土づくり資材投入



—能美小松営農推進協議会—

—うまい・きれい石川米づくり運動推進本部委員会・石川県米麦改良協会—